

星の数で区分

# 新システムで初の交付

## 南信州環境規格「いいむす21」

南信州広域連合(連白長・牧野光朗飯田市長は18日、環境改善活動の広がりを狙いにした地域独自の環境マネジメントシステム「南信州いいむす21」の登録証を飯田市内の7事業所に交付した。新旧システムの移行期間にあたり、4事業所は評価ポイント数に応じた新区分による初の取得となった。従来の「初級」「中級」「上級」の3クラスに替えて、取得ポ



7事業所に「いいむす21」の登録証

イントに対応した「★(星)数による」「★3」「★10」の8段階の区分に変更。最上位区分の「ISO14001南信州宣言」は、国際規格「ISO14001」の2015年改正版への適合修正を図り、継続する。

今回南信州宣言を「勝間田建設」(松尾町3)が更新で取得し、新システムの満点となる★10を「協和設備」(上郷飯沼)と「おひさま進

歩エネルギー」(馬場町)が★9を「綿藤トキワフーズ」(松尾上薄)と「丸宝計器」(鼎一色)が受けた。「竹原運送店」(上郷飯沼)と「井坪設備工業」(上郷別府)は旧システムの初級を更新した。

市役所で登録証を交付した牧野市長は「中小事業所でも取り入れやすく、業務の環境改善につながるシステムとなって

おり、裾野の広がりを期待したい」と話した。ポイント加算で取り組みやすく、いいむす21は飯田下伊那で活動する事業者が取り組みやすいよう、ISO14001の簡易版として2001年に創設。地元事業者らでつくる「地域ぐるみ環境ISO研究会」が審査や支援を担い、広域連合で認定する。06年から旧区分のステップアップ方式を採用し、13年により明確なマニュアルや審査基準を整備した。

今回の改定は国際規格の改定を背景にしつつ「それに準じた場合は要求レベルが高く、事業所も審査側も負担が大き」と判断。さまざまな事業所の実情に合わせられるよう、要求事項を細分化し、ポイントの加算制度にあらためた。経費の削減や生産性・歩留まりの向上など、事業所本来の業務とも連動した実践的な活動を促す制度

設計に意を配した。具体的には、必須要求として「年3回の環境一斉行動週間へ参加している」など16項目を満たした場合に「★3」が与えられる。以降は加算ポイントに応じた区分で★の数が増える。これまでは区分ごとの審査項目を満たさないと次のステップに進めなかった

ため、上位の項目の一部を満たしていても下位にとどまるようなケースもあったという。今回の交付により、南信州いいむす21の登録事業所数は「初級」25、「中級」13、「上級」6、「ISO14001南信州宣言」6、「★9」2、「★10」2の計34となった。